

提言「インターネットガバナンスのあり方について —第2回世界情報社会サミット(W SIS)に向けて—」概要

2005年9月20日

(社)日本経済団体連合会

1. 情報社会の発展と世界情報社会サミットの開催

【情報社会の現状】

問題認識

- ICTが発展、インターネットが社会インフラ化
- ICTの利活用による、さらなる国際競争力の向上が可能になる
- 国際的なデジタルデバインド問題の発生・拡大
⇒基本インフラ(電気・水道等)+ネットワークインフラの不備、利活用能力差の拡大
- ネットワーク・セキュリティに対する不安
⇒ウイルス、DoS攻撃等のサイバーテロ、その他

国際協力
が必要

【WSISの開催(2005年11月16日～18日、チュニス(注))】

- 政府・民間企業・市民社会などの各ステークホルダーが、諸問題の解決に向けて議論
- テーマ…インターネット・ガバナンス全体について
具体的にはフォーラム機能、インターネットの管理および監督、組織・地域間の連携など
第1回サミットからの継続審議事項、および行動計画の評価

・産業界にとって、ICTおよびそれを支えるインフラであるインターネットは必要不可欠。その安全を支えるガバナンス、セキュリティの問題は我々自身の問題。
・全体の一部である「インターネット管理(ICANNの妥当性)」が政治問題化し、過度に強調されているため、他のテーマが十分に議論されない可能性あり。

企業ユーザーの意見を反映させるために、明確な意思表示が必要

2. 第2回世界情報社会サミットへ向けた提言

注) 第一回サミットは2003年12月にジュネーブで開催された。

【目指すべき情報社会】

- ・地球規模でユビキタスネットワーク化し、誰もがICTの恩恵にあずかることができる社会
- ・高度なICTの利活用を行うことで、新たな価値を創造し、継続して発展する社会

【総論(基本スタンス)】

- 利用者の立場で考える
- 民間部門の活力がインターネット発展の原動力
- WSISでは、国際社会での対応が必要な課題について議論すべき
- 各ステークホルダーが自らの役割を認識し、パートナーシップを通じて責任を果たすことが重要

【各論】

- デジタル・デバインドの解消 → 既存組織を活用して基礎インフラを整備した後、国際協調の下でICT人材育成およびネットワークインフラ整備等を行うことが妥当。
- ii) 安心・安全なネットワークの構築 → 全員の当事者意識が重要。政府部門は犯罪抑止力向上等民間企業はベストプラクティス開発等、各自の役割を果たす。
- iii) インターネット資源の管理 → 環境変化に柔軟に対応できる民間部門が担当、ただし透明性および公平性向上のための改革は必要。
- iv) さらなる利活用のための環境整備 → 電子商取引ルールの整備等が必要。
- v) ポスト・サミット → 今サミット後も、上記をはじめとするインターネットガバナンス上の問題を議論する「フォーラム」は必要。ただし強制力を持たせる必要はない。
- vi) 民間部門の役割 → セキュリティ対策や技術開発等、求められる役割を適切に果たす。